

## 機械工学科の教育課程の編成及び実施に関する方針

機械工学科では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針に沿って学科別の教育課程を編成し実施する。

下表の「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために、全学共通初年次教育科目、教養科目、外国語科目、体育科目、自然科学科目、専門教育科目の授業科目を各能力に即して体系化するとともに、講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また、学修成果の評価は、専門的な知識・技能および態度を修得する授業科目に関しては、授業形態や授業手法に即した多面的な評価方法により、各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し、「憲章」に示される日本大学マインドおよび自主創造の8つの能力（汎用的能力）の達成度に関しては、教育課程の体系に基づく授業科目の単位修得状況及び卒業研究の到達度や、学生自身による振り返りと他者との協働における相互理解等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
豊かな教養・知識に基づく高い倫理観	【DP-1】 工学技術が社会と環境に及ぼす影響を理解し、幅広い教養・知識に基づく高い倫理観を涵養できる。	【CP-1】 全学共通初年次教育科目、教養科目及び学科専門教育科目等を通して、工学にかかわる分野で社会と環境に貢献できる工学的手法に習熟させ、それらを駆使できる幅広い教養・科学の学修を通じて、高い倫理観を育成する。
日本及び世界の現状を理解し、説明する力	【DP-2】 グローバル化する社会における工学技術者として、多文化や異文化に関する知識や国際社会が直面している問題を理解し、説明できる。	【CP-2】 外国語科目及び学科専門教育科目等を通して、日本大学並びに日本大学工学部の使命を理解し、自らの専門分野の日本および世界における工学的役割や諸問題を幅広く見渡し、説明できる能力を育成する。
論理的・批判的思考力	【DP-3】 体系化された継続的な学修により工学の基礎力を身につけ、工学技術者として論理的、批判的に思考できる。	【CP-3】 自然科学科目及び学科専門教育科目等を通して、工学にかかわる分野の基礎となる、論理的・科学的・批判的思考の重要性や手法を、体系化された継続的な学修によって理解・修得し、専門分野における幅広い知識の吸収力と高度な技術力を身につけ、発揮できる能力を育成する。
問題発見・解決力	【DP-4】 工学の基礎力に基づいて、自ら問題を発見し考察できる発想力と分析力を持ち、問題の解決策を提案できる。	【CP-4】 学科専門教育科目等を通して、持続可能な社会の実現に向けた、工学にかかわる幅広い分野の知識や技術を学修させ、問題解決型や提案型の思考に接することで想像力を養い、豊かな発想と高度な分析を通して、自ら問題を発見し解決できる能力を育成する。
挑戦力	【DP-5】 地球環境の保全や健康的な生活に工学の立場から寄与し、持続可能な社会の実現のために、あきらめない気持ちをもち、果敢に挑戦できる。	【CP-5】 学科専門教育科目等を通して、持続可能な社会の実現に向けて自ら考え行動し、工学にかかわる分野で社会に貢献できる専門知識・技術を体系的に身につけさせ、自らのキャリアデザインも含めて、新しいことに果敢に挑戦できる能力を育成する。
コミュニケーション力	【DP-6】 社会性を持つ工学技術者として、常に他者の意見に耳を傾け、自らの意見を相手に伝達できる。	【CP-6】 全学共通初年次教育科目、教養科目、体育科目及び学科専門教育科目等を通して、社会性を持つ工学にかかわる分野の技術者として、豊かな人間関係づくりの土台となる心身の健康、集団行動の能力、多様なメディアを用いたコミュニケーション力を身につけさせ、自分と異なる立場の他者を理解・尊重しつつ、自らの考えを相手に伝えることができる能力を育成する。
リーダーシップ・協働力	【DP-7】 工学技術者の立場から他者との協働を通して、リーダーとして他者の力を引き出し、その活躍を支援できる。	【CP-7】 全学共通初年次教育科目、体育科目、自然科学科目及び学科専門教育科目等を通して、学修における協働作業の中で、他者と協働し社会に貢献できる人間性豊かな技術者になる素養を身につけさせ、集団の中でリーダーとして他者の力を引き出し、その活躍を支援できる能力を育成する。
省察力	【DP-8】 自己を見つめ、自らの言動を謙虚に振り返り、工学技術者として自己研鑽できる。	【CP-8】 学科専門教育科目等を通して、工学にかかわる分野に関して、常に他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止め、自らの学修や活動の達成度を謙虚に振り返り、新しい知識や技術の修得に励むことができる能力を育成する。